vinetur

中国の業者、ブルゴーニュ最高級ワインの供給逼迫を報告

収穫量の減少とRomanée-Conti、Leflaiveの割当縮小を輸入業者が指摘。一方、価格下落は需要の弱さを示すとの見方も

2026年11月23日（月）



中国の輸入業者やワイン商は、ブルゴーニュの最高級ワインの一部で供給が選択的に逼迫していると報告している。ただ、問題がどの程度広がっているのか、また中国の高級ワイン市場の需要をどう示しているのかについては、見解が分かれている。

月曜日にVino Joy Newsが掲載したインタビューによると、複数の業者は、収穫量の減少と割当の厳格化で中国に届く量が限られ、Domaine de la Romanée-Conti、Leroy、Leflaive、Domaine Gros Frère et Sœurなどのワイナリーのボトルを確保しにくくなったと話した。一方、一般的な供給不足には陥っていないとする業者もおり、価格の軟化は購入の急増ではなく、消費の弱さを示していると主張した。

上海を拠点とするMerveille Businessの最高経営責任者、Li Yajun氏は、複数のブルゴーニュの有力銘柄で今年、供給が引き締まったと同紙に語った。変化は7月に始まり、一部の比較的低価格なヴィンテージで需要が供給を上回った後、ほかのヴィンテージにも広がったという。

匿名を希望したブルゴーニュのワイナリーグループの中国代表は、同様の制約は年初に表面化し、中国だけでなく複数の市場に影響していると述べた。ブルゴーニュ全体で在庫が異例の薄さとなっており、前例のない状況だと説明した。

Fine Westの最高経営責任者、Wu Xianghua氏は、自身が確認している供給の引き締まりは、一部の業者が示唆するほど広範ではないと述べた。最も明確な圧力が見られるのはLeflaiveの入門価格帯の白ワインで、とりわけ価格の低い地域名表記のワインや、すでに完売したヴィンテージだとVino Joy Newsに語った。

こうした見解の相違は、中国のワイン市場全体が依然として圧力を受けるなか、業者が供給問題と実際の需要の兆候を見分けようとしている時期に生じている。Li氏によると、ブルゴーニュの有力生産者は依然として中国の富裕層やコレクターを引きつけており、市場全体が苦戦するなかでも高級ワインの需要は比較的安定している。その状況では、生産量が少ないため供給不足が起きやすいという。

匿名のワイナリーグループ代表も同様の見方を示し、ブルゴーニュの対中輸出は金額ベースで増加しており、有力生産者はワインを飲む人々と投資対象として購入する人々の双方を引きつけ続けていると述べた。中国の消費者におけるDRC、Leroy、Leflaive、Domaine Gros Frère et Sœurの位置づけは、ボルドーの格付けシャトーに匹敵すると説明した。

一方、Wu氏は、入手しにくくなったことを、中国の消費者がブルゴーニュをより多く飲んでいる証拠とみなすのは誤りだと述べた。同氏によると、主な変化は供給側にある。Leflaiveは2024年と2025年の生産量を減らし、販売チャネルを通じた流通管理も厳格化して、中国向けの割当を縮小したという。そのため、実際の消費が増えていないにもかかわらず、販売が好調であるかのような印象が生まれたと述べた。

この違いはブルゴーニュに限った話ではない。飲料の輸入業者や販売業者にとって、ボトルの減少、価格の軟化、需要のばらつきが併存する市場では、より精緻な仕入れ判断が求められる。とりわけ高級品市場では、希少性が好調さと誤認されることがあり、供給が引き締まるほど来歴の重要性も増す。

Li氏は、フランスのファインワイン取引における最近の別の事例も挙げた。ブルゴーニュの状況を、Château Lafite Rothschildのセカンドワイン、Carruades de Lafiteが今年初めに品薄となったケースと比較した。Vino Joy Newsによると、この事例では需要の弱さから輸入業者が仕入れを減らし、比較的手頃な2023ヴィンテージの流通量が減少した。年央には業者が再び品薄を口にするようになったが、入手可能量の減少は消費の拡大を反映したものではなかった。

一部のブルゴーニュ専門業者は、最近の品薄との指摘は市場のほかの動きと合致しないと述べた。Wu氏によると、同氏の見立てではDRC、Leroy、Domaine Gros Frère et Sœurの供給は比較的安定している。上海Boyun Trading Co.のゼネラルマネジャー、Lin Jianbing氏も、主要なブルゴーニュワインの供給は全体としておおむね安定しているとVino Joy Newsに語った。

Lin氏は、数年前には需要が供給を明らかに上回る時期があったとしつつ、この2年間の中国の経済状況は、もはやそうした傾向を支えていないと主張した。需要が本当に供給を大幅に上回っているなら、価格は維持されるか上昇していたはずだという。ところが、この2年間で多くの銘柄の価格は大幅に下落し、価値を保ったのはごく一部にとどまると述べた。

Lin氏はこの見方を裏付ける材料として、中国の飲料市場全体を測る指標として有用だとするMoutaiの価格下落を挙げた。同氏の見解では、Moutaiの価格低迷は、ファインワインを含む幅広いカテゴリーに圧力が及んでいることを示している。

見解の相違から、市場を単純に説明することはできないと分かる。入手しやすさは、生産者、ワイン、ヴィンテージ、そしてボトルの購入経路によって異なるようだ。ある流通網にアクセスできる業者には供給が安定して見えても、別の経路で仕入れる業者は、割当の縮小や調達コストの上昇に直面する可能性がある。

懸念は価格や数量だけでなく、ボトルの出所にも広がっている。ブルゴーニュを専門とするGuangzhou Bacchus Fazhuang Trading Co.の会長、He Shengxi氏は、供給が逼迫すると、出所が不確かなワインが市場に入り込む余地が生じるとVino Joy Newsに語った。品薄は現実に起きており、買い手はより慎重になるべきだと述べた。

同氏によると、ブルゴーニュでは10年近く生産量の減少が続き、かつて存在した緩衝在庫もほぼ底をついている。同時に、同地域の有力生産者には世界各地に長年の取引先があり、ボトルが入手できる際にはそうした相手が優先されるため、新規顧客に回る量は少なくなるという。

同氏は、ブルゴーニュのワイナリーから直接仕入れた自身の経験から、割当がいかに限られているかが分かると述べた。あるケースでは、1年を通じて12銘柄合計で受け取れたのはわずか49本で、個別の銘柄によっては2本か3本しか入手できなかったという。ワイナリーの取引先を通じて購入する場合、割当はさらに少なくなることが多いと付け加えた。

また、流通の仕組みが中国本土におけるDRCの不透明さを増しているとも述べた。He氏によると、同ワイナリーは中国本土に直接の代理店を置いていない。香港の代理店であるWatson’s Wineへの割当は限られており、同社が自ら販売チャネルを管理しているため、最終的にどれだけのワインが中国本土市場に届くのか把握しにくいという。

同氏は、供給への圧力が疑わしい主張を招くこともあると述べた。ブルゴーニュの有力ワイナリーのボトルをめぐる偽造品の事例を振り返り、表示された瓶詰め日がラベルに記された収穫日と一致していなかったと説明した。また、DRCが中国で年間数千本消費されているという市場の話も否定し、同ワイナリーの生産量がごく少ないことを考えれば、そうした数字は現実的ではないと述べた。

公表されている生産量の推定値も、この点を裏付ける。Domaine de la Romanée-Contiの年間生産量は一般に約6,000～8,000ケースとされ、Romanée-Contiのグラン・クリュは年間わずか約5,000～6,000本とよく言われる。

同氏は、11月7日に自社を訪問したブルゴーニュのワイン業界団体の会長と、これらの問題の一部について話し合ったと述べた。